令和6年度 第3回帯広市社会教育委員会議 議事要旨

- 1 日 時 令和7年1月28日(火) 18:30~20:30
- 2 会 場 帯広市役所 10階 第6会議室
- 3 出席委員 橋本 功、柴山 敬、山田 知史、平田 昌弘、矢野 充、鳴海 亮、
池田 健一、藤森 元恵、岸田 智子、野村 勇、久保田 博己、
三浦 真希子、佐藤 康則
(以上13名、敬称略)
- 4 事務局 生涯学習部長 村木 章純、生涯学習文化課課長 天池 文彦、生涯学習文
化課生涯学習係主任 加藤 主夫、生涯学習文化課生涯学習係主任補
中橋 一平
(以上4名)
- 5 会議次第
○第3回会議は、十勝高校生団体 CAN-PASS 代表 長瀬 幸奈 氏より講話をいただ
いた。

<講話内容>

- (1) 十勝高校生団体 CAN-PASS について
 - ・高校生が友達を作りたい、何か大人と関わって行動してみたい、イベントを開きたいといった、最初の一步を踏み出すきっかけ作りや手助けを行う団体。
 - ・十勝管内の高校生17人で活動中。
 - ・モットーは「できることから、はじめよう」。
- (2) 活動内容 (CAN-PASS)
 - ① ピンクシャツデー
 - ・いじめに反対する姿勢を示すために、カナダの小学校で始まったピンクのシャツを身に付ける活動。CAN-PASS では、シャツに代わってミサンガや髪飾りなどを保育園の園児と作成。
 - ・接し方など試行錯誤したが、高校生側は子どもたちの主体性に配慮したり、子どもたちも積極的に高校生に話しかけてくれるようになり、それぞれのできることを活かして良い作品を作ることができた。
 - ② 保育園バザー
 - ・ビンゴゲームの司会や、おやつの出店などの手伝いのほか、簡単なプログラミングに係るワークショップを実施した。
 - ・子どもたちの中には既にパソコンに慣れている子も多く、そういった発見を大

事にしながらお互い楽しむことができた。

③ 講話活動

- ・企業や学生に対して、まちづくりについての考えなどを伝えた。
- ・高校生の声を直接伝えることの重要性を感じた。

④ Tokachi EGG s

- ・高校生が体験×青春×課題解決のプログラム。4日間で十勝の課題を見つけ、その課題に対する解決策を話し合いながら、最終日にプレゼンを行う。
- ・フィールドワークの中では、支給された活動費を使って、北海道の名物を食べに行ったり、試作品を自分たちで作ってみたり、夏の思い出となる活動もプラスして行う形。
- ・十勝管外から集まった大学生のメンターに、高校生の活動を伴走していただいている。メンターの中には既に起業されている方もおり、行き詰まったときの乗り越え方など、社会人メンターよりも近い目線で直接指導をいただいている。
- ・2024年度では、最終発表時に4つのアイデアが発表された。『鹿フェス』は鹿肉の廃棄などの問題に着目したイベントで、現在もメンバーを集めながら構想を進めている。『暗い公園を照らすベジライト』は、学校帰りに公園を通るときに夜道が暗いという課題をもとに、野菜でライトを作る、ミラーボールも置くなど、高校生ならではのアイデアを紹介していただいた。こちらも、引き続き挑戦したいということで、CAN-PASSに相談いただいている。
- ・ビジネスコンテストを実施している訳ではないので、日頃困っている点や、改善点などを実際にアイデアにしてみんなに共有する、そのプロセスを大事にしている。

⑤ トンネル型イルミネーション『おびとん』

- ・帯広駅前に青いトンネル型のイルミネーションを設置。
- ・イルミネーション事業を行う企業から支援をいただき、企画・設営を実施。
- ・冬に彩りを与える活動として行っており、『おびとん』を使ってSNSにて写真や動画が投稿されているほか、色々な世代の方の目に触れることが重要だと考えているので、今後も続けていきたい。

(3) 活動内容（長瀬氏個人）

① 美容講座

- ・「帯広を美容の街に」として、美容系の企業とコラボし巻き髪講座とパーソナルカラー診断を行い、高校生30名に参加いただいた。
- ・元々は、パーソナルカラー診断の機械が帯広にあまりなかったことから開催に至り、直接美容師に様々な質問をできる機会となった。こういった普段とは違う活動も「まちづくり」と捉えて実施している。

② 国際雑談（札幌市）

- ・札幌市にて、国際交流イベントを開催。学生団体ARNを設立した。

- ・日本人の学生×大学に来ている又は日本語話者ではない留学生の方が交流する機会となる。

- ・プログラム内は全て英語で行い、ミニゲームを通して、直接自分の目で見て学ぶ形。

- ・私達が自作した「話題カード」を使用して、会話に困ったらめくる。話題カードが「今どこに行きたい？」だとしたら、「自分はアメリカに行きたい」「母国に帰りたい」などを聞きながら掘り下げて会話をしていく。

- ・これまで5回開催し、延べ180名の方に参加いただいて、札幌の高校生から「会話をするきっかけになっている」や「表現の幅が広がった」「英語力の大事さを実感した」などの声をいただいた。

③ インターン参加

- ・東京にて大学生向けのインターンに参加。子供向けの新サービスの提案を行った。

- ・中学生までにおける経験値の違いをうらやましく感じたり、自分の意見の伝え方に悩んだりし、大学生の技術に圧倒された点からも、更に成長しようと感じることができた。

(4) 活動を通して

① 活動に対する思い

- ・どのイベントにおいても、学生ならではの意見を浸透させたいと感じている。

- ・様々な経験をし、様々な職種の方に触れ合う中で、日ごろから職業に対する意識があり、「自分に向いている仕事」などについても考えられるようになった。

- ・いろんな人が自分で考えた楽しみながら実践している姿を目にすることが嬉しく感じるようになった。

- ・最初の方は「うまくいくだろうか」と不安に感じることもあったが、回数を重ねるごとに自信が付き、仲間や参加する方も増え、アイデアが形になることは凄いことだと思っている。

② 感じる課題

- ・遠くから参加される高校生は、交通費や宿泊費をかけて参加しており、厳しい状況にあると感じている。費用負担がネックとなれば、『機会格差』が生じると感じている。

- ・情報の拡散方法について、様々な媒体において周知を行っているが、全ての学生に届いているわけではないため、改善したいと考えている。

- ・高校生が（私たちが実施しているような）課外活動に参加する時間が取れないことを課題と感じている。ボランティアもやってみたいが学業や部活などの時間を少しずつ削る必要がある。

(5) 十勝への思い

・十勝の魅力を外部に伝えることができていないと感じている。実際に来ていただいた方は、リピーターになっていただいていることも多く、外部に魅力を伝えていくようなシステムがあると良いと思う。

・活動の際、平日に学校を休まなければならないときがある。当然学業が一番大事だと思うが、自分を含め、意義ある活動であっても休みづらいと感じている学生が多い。札幌市の高校生に話を聞くと、こういったボランティアやまちづくりのイベントへの参加が高校の単位に認められ、「こういう活動しているのだから当たり前」とも聞くと、このようなギャップを少しでも埋めていただけたら嬉しいと思う。

・帯広・十勝の良さは自然に直結していると思う。十勝の良さを大事にしながら発展していけば良いと思う。

<講話後の質疑>

○委員

TokachiEGG s について、2023 年の発表はどのようなものがあったか。

○長瀬氏

2023 年に自分が参加者であった際に出したアイデアとしては、プリクラ専門店をつくる、というもので、需要に対して機種や数が限られていることから着想した。輸送費がネックとなり一旦落ち着いたが、2 か月後に自分に関係ないところで専門店が帯広にできた。

○委員

学生に情報が行き届かないとの話があったが、長瀬さんのようにインターンシップへの参加はしにくい状況なのか。

○長瀬氏

小中学校教員のインターンはあるものの、インターンの情報が学校の掲示板に貼られていること自体が少ない。

○委員

幼稚園のイベントなどでインターンをお願いすることもできると思う。

○長瀬氏

自分も個人的に週に1度程度保育園のボランティアを行っているが、これがインターンシップであれば幅広い学生が参加することができる。また公欠となり、単位も取れる。

○委員

帯広にも留学生が多く、地元での活動も期待したい。

○長瀬氏

帯広畜産大学のボランティアサークル「とことこあるこう」と関わりがあり、話し合いもしているが、日程が合わず形に至っていない。

○委員

長瀬さんのモチベーションはどこにあるのか。

○長瀬氏

自分は小学校4年生まで「おしゃべり」が苦手な人間だった。5年生のときに生徒会の選挙に出た際に、人前で話すことに楽しさを感じ、私が踏み出してないだけで知らない世界がいっぱいあるということをそのとき感じたことがモチベーションの1つだと思う。その後たくさんの人との出会いで様々な気付きがあり、それを感じられることが最大のモチベーションだと思う。

○委員

ボランティア部であれば公欠で出かけることができる。

○長瀬氏

私の高校にはボランティア部がないが、もし全ての学校にボランティア部があればと思う。

○委員

高校で課外研究の発表がある。総合的な探求の時間が高校であり、自ら課題を見つけて取り組みを進めていくが、その時間とのリンクは難しいか。

○長瀬氏

自分は総合探求では別の活動を取り扱っているが、もしそこに取り上げてもらえるのであればWin-Winになると思う。

○委員

公欠の線引きはとても難しいもので、学校を休まなければ取り組めないものなのか、判断が難しいところ。公欠ではなく学校を欠席するとしても、活動内容を堂々と説明いただければと思う。取り組みはきっと自分の力になるし、今まさに高校生が身につけなければならないことだと感じた。

○長瀬氏

自信を持って取り組みについて、私からでも他のメンバーからでも説明できるよ
う、これからも活動を続けていきたい。

○委員

長瀬さんのような方を地域にたくさん増やすとすれば、何が課題とを感じるか。

○長瀬氏

実際に見てみるのが大事だと思っている。誘って参加してくれた子も、来てみたら「良かった、楽しかった」と言う子がほとんど。聞くだけだと、ボランティア活動の意義に疑問を持つ子もいると思うし、自分も CAN-PASS に出会わなければ同じように感じていたかもしれない。いろんな人がボランティアに対してどう動いているか、どのような出会いがあるかなどを実際に目で見て、それを次に繋げていってもらうように促していければ、増えていくと思う。

○委員

長瀬さんにとって、この活動は進学などを考えるととても良かったのでは、と思う
がどうか。

○長瀬氏

私は留学をしたいと考えていたものの、進学の兼ね合いを考えると難しく、ただこれらの活動に取り組んでいて後悔していない。多くの出会いや色々な人と繋がりを持つことができたことは自信となり、励みにもなると感じ、「満足」の一言で終わらせられるような活動をしてきたことが、進学にも繋がると思う。

○委員

失敗も成功もしない若者が多いと思うが、今後も色々な体験に取り組んでほしい。

○長瀬氏

活動や挑戦も無駄にはならないと思うので、今後も大事にしていきたい。

○委員

まちなかの活性化について、高校生が歩くような中心街であってほしいと思うが、
どのような施設があれば街を歩きたくなるか。

○長瀬氏

お昼に営業している美味しいお店があればと、私の周りがいつも話している。どう
しても夜しか開いていないようなお店が目立つが、学生が学校帰りに立ち寄るとなれ

ば、ランチタイムだとか、ちょっとおしゃれなカフェだとかに滞在すると思う。性別関係なく飲食店は誰でも行く場所なので、街に自然と人が来るっていう流れを作れるのではないかと考えている。

○委員

アイデアが形になって一番嬉しかったこととその理由をお聞かせいただきたい。

○長瀬氏

国際雑談と迷うが、ピンクシャツデーが一番だと思う。理由は、どの年代でもわかること。私達の本質を誰にでも理解してくれやすいイベントであることに加えて、子どもたちと関わる機会があることが理由。将来保育系を目指している高校生が経験できる場でもあるし、私も3歳ぐらいのお子さんではまだ難しいと思うようなことを、自分よりも上手に作品制作したり、私のアイデアからそのような「驚き」を得ることができたというのが非常に嬉しかった。

○委員

子どもたちから個性を感じた場面には遭遇されたか。

○長瀬氏

皆色々な個性があって、例えばひらがなをまだ読めない子が、皆とカルタをやることになり、自分はなぜ読めないのかと非常に悔しがっている場面があった。保育園の先生に相談したところ、私が一緒に楽しんでる姿を見せてあげることで、ひらがなに対する恐怖心が自然に消えるのではというアドバイスをもらい、無理のない範囲で一緒に遊び、遊びたくないのであればやめてもいいというような空気を作るようにしている。

○委員

保育園の先生からアドバイスを受けた後、自分で調べたいと思ったことはあるか。

○長瀬氏

どのタイミングでひらがなを読めるようになるものかなど調べてみた。結論は「人によって違う」。実際その子は小学校に入学してから、自然と机に向かう機会が増えていく中で、少しずつ覚えている段階。

○委員

課題として感じられている中に、交通費のお話があった。どのように解決できると考えられるか。

○長瀬氏

Tokachi EGG s の活動には、元々十勝の企業から協賛金をいただいているが、交通費に使ってよいか判断がついていない。現時点では手を出さないようにしている。

○委員

活動費については、企業に対して「帯広の街のために私達の力を提供させてください」といった折衝ができると思う。またクラウドファンディングも有効。

SNS の活用について、どのようにすれば十勝を元気にさせることができるか。

○長瀬氏

皆さんに質問だが、秋口に帯広駅を訪れた際、写真を撮るとすれば、どこを撮ると思うか。

温度計を撮る高校生が多い。「帯広が寒い」ということを表しているからだと考えている。私の親であれば撮らないと思うし、高校生ならではの視点があり、活かすことができると思う。

○委員

長瀬さんから、皆さんに質問したいことがあれば。

○長瀬氏

皆さんが、高校生に期待することは何か、教えてほしい。

○委員

自分の考えをしっかり持つということと、人前でも自分を主張できること。基本的なことで、挨拶。

みんなで楽しく活動できるチームを作れるような学生。隣の子のことも気にかけてくれるような学生であると嬉しい。

○委員

総合的な探求の時間もあるが、是非大人になっても、地域と一緒に探求していければと思う。

以上